

北見工業大学

日本語版
2016年 第111巻
6月・7月

国際交流センター ニュースレター

《目次》

- 大学祭での国際交流イベント
- 慶尚大学校工科大学(韓国)との短期交流研修
- 留学生「野草観察会」
- インターナショナルCアワー「絵手紙を描こう!」「流しそうめん」
- 今後の予定



大学祭の留学生着物体験

1日目は留学生を対象に「生け花教室」を開催し、12名が挑戦した。教室を主宰している西野先生に教えていただき各自が花器に生けた。アドバイスや手直しを受けながら30分前後で作品が出来上がった。参加者の投票によって、最優秀賞にはモンゴル科学技術大学から研修のために来日していたウルチバイヤ(Ulzubayar Vandandoo)さんの作品が選ばれた。出来上がった作品は、学長室、図書館、茶道会場などに飾られて大学祭に花を添えていた。



模擬店として、台湾、中国、モンゴルからの留学生による出店があった。台湾人留学生は「タピオカミルクティー」、「タピオカ紅茶」と、家庭料理である「ローバーブン」を販売。台湾人の留学生ライ・ジュンイーさんは「準備が大変だったけど、お客さんが美味しいと言ってくれて嬉しかった」と話していた。中国のお店では、焼き餃子と醤油味の煮卵「チャーイェダン」を販売。煮卵は1日目で完売してしまうほどの人気だった。



モンゴルの留学生は、揚げ餃子に似た食べ物「ホーショール」をはじめとし、細長いドーナツのような「グレメル」、羊肉と野菜の串焼きの「シュルログ」といった伝統料理を販売し、テント内にはモンゴルの紹介ポスター展示や伝統的なおもちゃで遊べるコーナーもあり、常に大盛況。模擬店コンクールでは1位入賞に輝いた。また日本人の学生による国際交流サークル“OFIC”は餃子ピザとフラッペを販売し、模擬店コンクール3位に入賞した。



北見藤女子高校茶道部の協力を得て、国際交流お茶会を開催した。日本人学生や一般の方々も楽しめるように毎年実施している。4月に発足した北見工業大学茶道サークルのメンバーも特別参加をして、両日で100名を超えるたくさんの方々にお越しいただいた。



6月26日(日)の2日目は、留学生を対象とした着物体験が実施され、留学生18名が着物に袖を通した。振袖を着た中国の留学生リン・ユウトンさんは「帯をぐるぐる巻くのびびっくりした。着物がとても綺麗で、着ていて楽しかった」と感動していた。ポーランドの留学生パベウ・レムパさんは「自分の着物が欲しくなった」と話していた。ほぼ全員が生まれて初めての着物体験でたくさん写真を撮っていた。天候はあいにく雨模様の2日間だったが、留学生は様々な企画に挑戦し大学祭を満喫できたようだ。

慶尚大学校工科大学(韓国)との短期交流研修

7月14日(木)~20日

7月14日(木)から20日(水)までの7日間、本学協定校である韓国晋州市の慶尚大学校工科大学の一行14名が来日し、短期交流研修を実施した。この研修は両大学の相互理解と友好を深めるために1999年から隔年で両大学を訪問する形で実施している。今年は慶尚大学校の学生10名(男性5名、女性5名)と4名の引率教官が北見を訪れた。



3日目はホームステイ先での自由行動となり、知床、山の水族館、温泉、回転寿司、しゃぶしゃぶ等、各家庭で様々な体験をさせてもらったようだった。引率者は北見神社、ぼんちまつりの屋台などを楽しみ、「焼き鳥がとても美味しかった!」と話していた。

4、5日目には本学の学生11名とオホーツク周辺の観光スポットを巡る1泊2日の研修旅行にでかけた。美幌峠、摩周湖、硫黄山、砂湯、網走の北方民族博物館、流水館を見学した。宿泊先の屈斜路研修所で行った交流会では「コンベ!」(韓国語で「乾杯」、の意)と盛り上がりながら夜が更けるまで楽しい時間を過ごした。



研修1日目は開講式を行い、本学の韓国人留学生が通訳を務めた。その後の歓迎会では研修中に滞在するホームステイファミリーとの顔合わせもあり、本学の韓国人教員や、昨年、慶尚大学校工科大学へ行った本学の日本人学生も加わった。

2日目は「日本語基礎」の授業として自己紹介などを学び、その後は日本人学生と一緒に学食で会食した。ラーメン、カツカレー、カツ丼などが人気のようだった。本学の研究に関して理解を深めてもらおうと実施した学内施設見学では、今春設立された「冬季スポーツ研究推進センター」でスキーシミュレーターなどを体験した。夜はぼんち祭りの舞踊パレードに全員浴衣姿で参加し、日本人と一緒に北見のお祭りを楽しんだ。

6日目は「日本語基礎」の授業で北見の思い出を日本語で発表し、続く「日本文化」では文化の違いを再確認した。午後は北見市長を表敬訪問し、各自日本語で自己紹介したり、北見の印象や思い出などを伝えた。今年は北見市が韓国の晋州市と姉妹都市提携30周年になることから、10月には北見市主催の交流旅行も企画されている。閉講式・送別会にはホームステイファミリー、本学の日本人学生、通訳を担当した韓国人留学生なども集まって大変賑やかであった。7日目は早朝の出発で、皆に見送られながらの離北となった。

言葉や文化の違いがありながらも一緒に時間を仲良く過ごしなが、両国間の交友を深められることを大変うれしく感じた。この研修を支えてくださった多くの皆様にこの場を借りて心より感謝を申し上げる。
カムサハムニダ!!

留学生「野草観察会」

6月24日(木)

北見常呂町「ところ遺跡の森」において、山岸喬名誉教授を講師に「野草観察会」を行った。留学生22人が、晴天の中でオホーツクの美しい大自然を満喫した。開催にあたりご寄付を賜った国際ソロプチミスト北見様に深く感謝を申し上げる。



Cアワー「絵手紙を描こう！」

6月29日(水)

6月のインターナショナルCアワーは、北見市「ミント宅急便」出前講座で「絵手紙」に挑戦した。会場は40人を超える参加者の熱気で一杯になった。はじめは筆の持ち方から教わり、線や円を描く練習をした。筆に慣れてから葉書に絵を描く作業に移り、実物の野菜と果物を眺めながら思い思いの絵を描いた。先生にコツを教わりながら、各自が心のこもった素敵な作品を完成させた。

台湾の留学生ライ・ジュンイーさんはバナナを描き、「このはがきでバナナが大好きな台湾のお母さんに暑中見舞いを出します」と話していた。完成後は飲み物とお菓子を交えた歓談の時間となり、互いに作品を見せ合ったり写真を取り合うなど楽しい初夏のひと時となった。



Cアワー「流しそうめん」

7月28日(木)



国際交流ラウンジ中庭で「流しそうめん」を開催した。あいにく雨の降る空模様だったが、流れるそうめんをキャッチして皆でおいしくいただき、さくらんぼやみかん、ゼリーなどの変わり種も流して楽しんだ。中国からの短期留学生ジャオ・シャオレイさんは「流しそうめんは日本の家庭料理だと思っていたが、違うと聞いて驚いた。実際に日本で流しそうめんを体験できて嬉しい」と話していた。韓国の留学生カン・ホンギョさんは「高級な日本食レストランへ行かなくても、大学で流しそうめんを食べることができて良かった」と喜んでいて。



スイカ割り大会も開催し、目隠しをしてグルグル回った後、かけ声を頼りにスイカをめがけて懸命に棒を振り下ろす姿が見られた。切り分けたスイカを美味しそうに食べる参加者の姿が印象的だった。OFICのメンバーは雨対策に前日からテントを張ってそうめん台をセッティングし、当日は汗だくになりながらそうめんを茹で、翌日もテントや会場の片付けをしてくれた。雨模様にも関わらずご参加くださった総勢72名の皆様に感謝を申し上げます。

今後の予定

- ◆短期留学生修了式 8月2日(火) 16:30
- ◆中国文化研修 8月17日～8月23日
- ◆オーストラリア語学研修 8月27日～9月10日
- ◆ドイツ語学研修 9月3日～9月30日

発行所：北見工業大学国際交流センター

住所：北見市公園町165

電話：(0157) 26-9370

FAX：(0157) 26-9373

E-mail：kenkyu05@desk.kitami-it.ac.jp



北見工業大学